

科 目 名
日本国憲法 Constitution

3 年 前期または後期 2 単位 選択

鈴木 義 孚

【科目区分】

学士課程共通の学習効果との対応：1-(2), 3-(3), (4)
建築学科教育カリキュラムとの対応：

学習・教育目標	JABEE基準 1 の(1)の知識・能力	コース名	必修／選択の別	授業時間
A	—	建築総合コース	選択	22.5時間
	A 1	建築計画コース		
	a, b	建築構造コース		

【概 要】

法の中で憲法学ほどポピュラーな学問はない。それにもかかわらずこんにちのわれわれの生活状況は、必ずしも満足すべきものではない。今日の憲法学は、明治憲法に比べれば飛躍的に進んでいるが、新しい状況に対応するには充分でないところがある。そこでこれから憲法を学ぼうとする学生のためにこれまでの憲法的知識を整理して伝え、憲法学的なものの考え方、憲法学の技術性・形式論理性を知ってもらうため、鳥瞰図的に基本的人権を中心に具体的事例を挙げて、判例をまじえながら講義を進めていく。また新聞のスクラップブックをつくることで、情報収集の仕方など自主的な学習を行う際の基本的な情報リテラシーを得られるようにする。

【到達度目標】

- (1) 法的知識の習得。
- (2) 法的なものの考え方の養成。
- (3) 法の技術性、論理性の習得。

【授業計画】

テ ー マ	内 容
① 憲法の概念	憲法の意義、憲法の特質
② 憲法の歴史	明治憲法の成立、日本国憲法の法的根拠
③ 国 民 主 権	主権の所在、ルソーの社会契約論
④ 天 皇	象徴天皇、国事行為、皇位継承
⑤ 戦 争 放 棄	平和主義、自衛戦争、自衛権、戦力の不保持
⑥ 基本的人権 (1)	法の下での平等、正義
⑦ 基本的人権 (2)	思想・良心の自由、信教の自由
⑧ 基本的人権 (3)	表現の自由・学問の自由
⑨ 基本的人権 (4)	居住・移転・職業選択の自由、財産権の保障
⑩ 基本的人権 (5)	奴隷的拘束からの自由、法的手続きの保障
⑪ 基本的人権 (6)	国家行為要求権、参政権
⑫ 憲法改正	憲法改正行為の限界、改正手続き
⑬ 財 政	租税法律主義、財政立憲主義
⑭ 地方自治	地方自治の概念、団体自治、住民自治
⑮ 総 括	前期講義のまとめ

【授業方法】

講義の後、問題を出して解答を書かせることがある。

【学習到達度の評価】

- 1) 定期試験。
- 2) 小テスト、レポートで理解度をチェックしながら講義を進める。

【評価方法】

定期試験 (80点)、小テスト (20点)

【教 材】

教科書：三好充、鈴木義孚、長谷川史明 著「テキストブック憲法」嵯峨野書院

【履修上の注意】

憲法を学ぶにあたって憲法の憲法たるところはどこにあるか、憲法はどのような働きをするものであるのか、憲法はなんのためにあるのかを念頭において、つねに憲法の立場に立ち憲法に照らして、国家生活における事実を見てもらいたい。